

JX日鉱日石エネルギー CSR報告2011



エネルギー・資源・素材の^{みらい}Xを。
JX日鉱日石エネルギー

障害者スポーツ応援クリック募金

JX日鉱日石エネルギーは、2010年3月から2011年7月の間、「障害者スポーツ応援クリック募金」の第8弾として、「スペシャルオリンピックス(SO)」を応援するためのクリック募金を実施しました。

実施期間：2010年3月～2011年7月

寄付先：NPO法人スペシャルオリンピックス日本

寄付金額：6,032,630円(1クリック=1円)

※2004年に開始した障害者スポーツを応援する「クリック募金」は、2011年7月で終了しました。この間、世界を目指してがんばっている障害者スポーツ選手・団体に32,931,549円を寄付しました。

現在は、豊かな森の生物多様性を守る活動を支援する「クリック募金」を実施しています。

詳細につきましては、障害者スポーツ応援クリック募金をご参照ください。

<http://www.noe.jx-group.co.jp/csr/click/disclosure/results.html>

JX童話賞

JXホールディングスが主催するJX童話賞は、「心のふれあい」をテーマに一般の方から創作童話を募集し、優秀作品を表彰するコンテストです。2010年度で、41回目の開催となりました。「一般の部」、「中学生の部」、「小学生以下の部」の3部門を設け、子どもから大人まで、童話創作の機会を提供するとともに、優秀作品を作品集「童話の花束」にまとめ、広く一般に配布しています。また、東京善意銀行やその他の社会福祉団体を通じて、「童話の花束」を全国の福祉施設、母子家庭および里親家庭に寄贈しています。

次世代育成・支援

JX童話基金

JXホールディングスでは、ENEOSのサービスステーションを運営する特約店やJXグループ各社・従業員などが購入した「童話の花束」の売上金を全て「JX童話基金」に組み入れ、社会福祉法人全国社会福祉協議会(全社協)に寄付しています。この寄付金は全社協が設立した「JX奨学助成制度」により、児童養護施設、母子生活支援施設および里親家庭の子どもたちが高校卒業後に進学する際の自立支援のために活用されます。

なお、2011年度から当面の間、東日本大震災によって被災された子どもたちへの支援にも役立てられる予定です。

ENEOSわくわく環境教室(出張授業)

JXエネルギーグループ従業員が講師となって小学校等を訪問し、「石油と私たちの暮らしとの関係」「石油製品の作り方」「地球温暖化の現状」「環境にやさしい新エネルギー」などのテーマについて、クイズや実験、本物の原油の観察などを行いながら、わかりやすく解説しています。2010年度は全国41校で開催し、約2,400名の子どもたちが受講しました。

「水素と二酸化炭素を比較する実験」や「燃料電池の発電実験」では、毎回、大きな歓声が上がリ、「環境・エネルギー」について、楽しく学んでいただいています。

ENEOS森のわくわく学校

JX日鉱日石エネルギーでは、小学生を対象とした1泊2日の環境・エネルギー研修プログラム「ENEOS森のわくわく学校」を、2007年度から実施しています。清里の森を守る活動をしている財団法人キープ協会の指導・協力のもと、森の探検、秘密基地づくり、森の木々や葉っぱを使った遊びや火おこしなど自然の中での五感を使った体験を通じて、子どもたちに自然とエネルギーの大切さを体感してもらうことを目的とした体験プログラムです。2010年度は7月と8月の2回実施し、小学生と保護者29組58名が参加しました。

なつやすみ科学バスツアー

JX日鉱日石エネルギーの製油所では、各地の新聞社とタイアップして「なつやすみ科学バスツアー」を実施しています。楽しみながらエネルギーと日々の暮らしの関わりを学んでもらうことで、次世代を担う子どもたちの環境意識の向上に貢献しています。2010年度は7カ所で実施し、555名の子どもと保護者が参加しました。

環境保全

「ENEOSの森」

地方自治体または(社)国土緑化推進機構とパートナーシップを結び、一定エリアの未整備な森林の保全を支援する活動のフィールドとして、「ENEOSの森」とネーミングした支援エリアが、北海道、宮城県、神奈川県、長野県、奈良県、岡山県(2カ所)、山口県、大分県の9カ所にあります。

これらの「ENEOSの森」では、各地域で森林保全専門に活躍するNPO等の団体を活動の先生として、当社グループ従業員やその家族などが、植樹、間伐、下草刈り等の森林保全を実施するほか、自然観察や鳥の巣箱かけ、森の恵みのささやかな収穫など、自然に親しむ活動を行っています。

2010年度は、9カ所で計18回の活動を実施し、従業員とその家族ら延べ1,482名が参加しました。

東京グリーンシップアクション

JX日鉱日石エネルギーは、都内に残された貴重な自然を守るために、東京都と民間企業、NPOなどが連携して行う環境保護活動「東京グリーンシップ・アクション」に2004年度から参加しています。東京都町田市の函師小野路歴史環境保全地域において、町田歴環管理組合の指導の下、従業員やその家族が、昔ながらの農法で荒れた田んぼを復元させる里山保全活動に取り組んでいます。2010年度は8回の活動を行い、延べ220名が参加しました。

日比谷公園花壇整備

緑多い都市の公園の中で、訪れる人々が癒されるような花壇作りを目指し、季節に合った花の植替え作業を行いました。年間を通して種まき、剪定などの園芸基礎講座も実施しました。2010年度は5回実施し、従業員とその家族ら延べ92名が参加しました。

「コウノトリ野生復帰」事業支援活動と「ENEOSわくわく生き物学校」

JX日鉱日石エネルギーでは、2006年から、多様な生き物を復活させる取り組みを実施している、兵庫県豊岡市の「コウノトリ野生復帰」事業を支援しています。

2009年度からは、関西エリアの子ども達を対象に、コウノトリ保護をテーマとした生物多様性保全の体験学習「ENEOSわくわく生き物学校」を開催しています。2010年度は、7月に実施し、小学生と保護者約20名が参加しました。2011年度は1泊2日のプログラムとして開催し、より高い学習効果を得られる企画とすることとしています。

ENEOSカードによる(社)国土緑化推進機構への寄付

ENEOSカードの発行を開始した2001年10月より、お客様がENEOSサービスステーションで同カードをご利用になった金額の0.01%相当額を(社)国土緑化推進機構に寄付し、国内外における環境活動の支援に役立てています。2011年3月までの寄付は累計で1億7,800万円を超えています。

公益信託ENEOS水素基金

JX日鉱日石エネルギーは、独創的かつ先導的な基礎研究への助成を通じて、水素エネルギー社会の早期実現に貢献することを目的に、2006年3月に本基金を設立しました。

本基金は、水素エネルギー供給に関する研究助成に特化したわが国初の公益信託で、年間総額5千万円(1件あたり最大1千万円)の研究助成金を、約30年間にわたり安定的に交付することが可能な規模を有しています。

2010年度は、51件の応募の中から、本基金の運営委員会による厳正な審査を経て決定した6名に対し、助成を行いました。

地域貢献活動・災害支援

JXエネルギーグループでは、全国各地で様々な地域貢献活動を実施しています。これらの活動について、毎月2回、「CSR活動トピックス」としてホームページ上で紹介しています。

HP: <http://www.noel.jx-group.co.jp/company/csr/topics/index.html>

JX日鉱日石エネルギーは、大規模災害による被災地の支援を実施しています。

2010年度は、7月に口蹄疫による被害を受けた宮崎県・鹿児島県に対し、義援金を拠出したほか、11月に奄美地方大雨による被害を受けた鹿児島県に対し、義援金を拠出しました。

また、東日本大震災の被災者支援のために、2011年3月、JXグループとして、日本赤十字社を通じて3億円の義援金を寄贈しました。

ボランティア活動支援

JX日鉱日石エネルギーでは、ボランティア休暇制度を導入し、従業員のボランティア活動を支援しています。2010年度(7月～3月)のボランティア休暇取得実績は、延べ24名・28日となりました。

“T”の活動実績(2010年度)

Trustworthy products / services 信頼の商品・サービス

わたしたちは、信頼され、必要とされる企業であり続けるために、商品・サービスの品質向上に常に取り組み、社会の期待に応えていきます。

JX日鉱日石エネルギーでは、お客様に商品・サービスをご提供するにあたり、品質方針を定め、地球環境や安全性に配慮し、製造から物流・販売にいたる各職場において品質保証に取り組んでいます。

なお、当社各製油所・製造所においては、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を取得しています。

販売現場での取り組み

お客様に商品をお届けするSS現場においては、SS運営者と協力しながら、商品の品質管理、接客等各種サービスの品質向上に取り組んでいます。

接客力の向上については、研修プログラムの実施、覆面チェック「ミステリーショッパー調査」等、積極的な取り組みを行っています。

2010年度は、全国のSS 4,571店舗を対象にミステリーショッパー調査を実施しました。その中で、2,360店舗(51.6%)が最高のS-Aランクと評価されました。

ENEOSお客様センターの活動

JX日鉱日石エネルギーにいただく貴重なお客様の声を、ENEOSお客様センターで受け付けています。当センターでは、「お問い合わせ」に対しては分かりやすく丁寧な説明を、「苦情」に対しては誠実かつ的確な対応を心掛けています。

2010年度(2010年7月～2011年3月)は、お客様からENEOSお客様センターに約84,000件の声をお寄せいただき、ENEOSカードの制度等についてお答えしました。

品質月間の取り組み

JX日鉱日石エネルギーでは、「全社的に品質保証・品質管理にかかわる意識の高揚を図る」ことを目的に、毎年11月を品質月間と定め、グループ関係会社および協力会社とともに、品質向上に向けたさまざまな活動を展開しています。

2010年度は、「ベストプラクティスの実践 ～一人ひとりの知恵と経験と力～」をテーマに、「「EARTH」を胸に みんなで築こう新生ENEOS品質」のスローガンのもと、各職場にて講演会の開催、日常業務の再点検、緊急時・異常時対応訓練等の活動を行いました。

欧州REACH規制への対応

2007年6月、欧州において新たな化学物質規制であるREACH規制※が発効されました。

※Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals

この規制は、欧州域内で年間1t以上製造または輸入されるほぼ全ての化学物質について、事業者に安全性評価データの登録を義務付けるものです。

JX日鉱日石エネルギーでは、石油連盟、石油化学工業協会などの関係団体と連携を取りつつ、社内に部門横断的な連絡会を発足させ、REACHの理解促進、関連情報や対応ノウハウの共有化などを推進しています。

欧州域内へ年間1,000t以上輸出する可能性のある化学物質については、2010年11月までに本登録を完了しました。現在は、1,000t未満の化学物質について、本登録に向けた準備を行っています。

“H”の活動実績(2010年度)

Harmony with the environment 地球環境との調和

わたしたちは、常に環境への影響に配慮し、あらゆる事業活動において、地球環境との調和を図っていきます。

関連するGCの原則

原則7: 環境問題の予防的アプローチ

原則8: 環境に対する責任のイニシアティブ

原則9: 環境にやさしい技術の開発と普及

環境方針と中期環境経営計画

JX日鉱日石エネルギーは、JXエネルギーグループ環境方針に基づき、2010年度から2012年度までの中期環境経営計画を策定しました。

中期環境経営計画を着実に実行するため、JXエネルギーグループEMS(環境マネジメント)体制を構築し、グループ一体となった環境マネジメントを推進しています。

地球温暖化防止対策の推進

精製段階における取り組み

JXエネルギーグループのCO₂排出量の約8割は精製段階で生じます。このため精製段階でのエネルギー消費効率の向上を最重要課題ととらえ、「2012年度の精製段階のエネルギー消費原単位2009年度比、3%削減」を目標に掲げ、最先端の技術の開発・導入や生産工程の改善、放熱ロスの削減など、さまざまな省エネ活動に取り組んでいます。

2010年度のエネルギー消費原単位は2009年度比1.6%(8.99→8.85)削減となりました。

これはCO₂排出量で39万トン相当の削減効果となります。

物流段階における取り組み

JXエネルギーグループは、物流段階において、改正省エネ法に基づき中長期にわたるエネルギー削減計画を策定(目標▲1%/年)し、実践しています。具体的には輸送ルート最適化、油槽所の集約、タンクローリーやタンカーの大型化などの物流効率化に加えて、アイドリング・ストップの徹底など、燃料消費量の削減に努めています。

2010年度、国内輸送における燃料消費に伴うCO₂排出量は、426千トンで、2009年度比1.2%の削減となりました。

生物多様性保全策の推進

JXエネルギーグループは、2010年11月、「JXエネルギーグループ生物多様性ガイドライン」を制定しました。「当社グループの事業活動が地球の生物多様性と大きく関わっていることを認識し、事業活動のあらゆる分野で生物多様性に配慮した取り組みを推進する」との基本方針のもと、事業活動による生物多様性への影響の把握・分析、および事業活動の改善に努めるとともに、自然保護、環境教育等、生物多様性保全に寄与する社会貢献活動を実施しています。2010年度は、全国9カ所で16回の自然保護活動を実施し、社員・家族ら延べ1,285名が参加しました。

継続的な環境負荷低減

JXエネルギーグループは、廃棄物の削減や、土壌・大気・水質などの環境負荷の低減に取り組んでいます。SS、油槽所等、所有する物件について、適切な土壌調査・対策を計画的に実施しています。2010年度は、370件のSSおよび8件の油槽所について調査を実施しました。ベンゼン・鉛等土壌汚染対策法に定める基準を上回る特定有害物質が検出されました9件の土地については、自治体等への申請・届出を行うとともに、行政の指導のもと浄化作業を実施しています。

水島製油所における大気汚染防止法に基づく定期検査の未実施について

2011年2月、当社水島製油所およびグループ会社である和歌山石油精製株式会社海南工場において、大気汚染防止法に基づくばいじん濃度測定が一部施設において未実施であることが発覚しました。

この事態を受け当社は、国内のグループ製造拠点の全て(16事業所)において、ばいじん濃度測定のみならず、大気汚染防止法に基づく他の測定項目(SO_x、NO_x)も含めたばい煙測定に関する総点検を行いました。その結果、水島製油所および和歌山石油精製株式会社海南工場における2件以外に、大気汚染防止法上問題となるものはありませんでした。

今後は、再発防止に向け、今般の法令違反の内容を盛り込んだ社員向け環境法令教育、各事業所の公害防止管理者による環境測定に関する年1回の監査、さらに各事業所の監査についての本社による年1回の監査を行うこととし、環境管理体制を更に強化するとともに法令遵守を徹底してまいります。

環境配慮商品・サービスの提供と開発

モーターオイル

JX日鉱日石エネルギーは、2010年11月、「ENEOSプレミアムモーターオイル SUSTINA(サスティナ)」の販売を開始しました。「SUSTINA」は、当社が開発した高性能化学合成ベースオイル「WBASE(ダブルベース)」と、当社独自の添加剤技術「ZP(ジンクピー)テクノロジー」により開発した高性能100%化学合成油です。

現在市場で販売されている省燃費エンジンオイルと比較して、「省燃費性能 最大2%向上」、「エンジン清浄性能持続力 2倍」、「省燃費性能持続力 2倍」の性能※を持ち、2010年10月より運用が開始となったエンジンオイルの国際規格の最高グレード(API: SN、ILSAC: GF-5)を取得しています。

※比較対象はAPI: SM、ILSAC: GF-4の同一粘度グレードの省燃費オイル。

実際の使用状況や粘度グレードにより性能が異なることがあります。

バイオガソリン

JX日鉱日石エネルギーは、2009年6月より、植物由来のバイオエタノールを原料としたETBE(エチル・ターシャリー・ブチル・エーテル)を配合した「バイオガソリン」を販売しています。2010年9月に九州地区で、2011年1月には大阪府でそれぞれバイオガソリンの販売を開始、茨城県・千葉県においても取扱SSを拡大しました。2011年3月末のバイオガソリン取扱SSは全国で約2,000カ所となっています。

京都メカニズムの活用

JX日鉱日石エネルギーと三菱商事(株)がロシア連邦石油企業大手のガスプロムネフチ社と共同で推進しているイエティプーロフスコエ油田随伴ガス回収事業が、2010年7月、ロシア政府初のJIPプロジェクトとして認定されました。JIPプロジェクトとは、京都議定書に定められている温室効果ガス削減の手法のひとつで、先進国同士が協力していずれかの国内で温暖化ガス削減事業を実施し、そこで生じた排出削減量に基づき、事業を実施している国より排出権が発行されるものです。

本プロジェクトは、ガスプロムネフチ社がロシア連邦ヤマルネネツ自治区に保有するイエティプーロフスコエ油田において、従来は利用されずに燃焼処理していた随伴ガスを、新設したパイプラインにより回収し、ロシア国内でガス燃料等として有効活用するものです。これにより、パイプラインの運転を開始した2009年8月から2012年12月末までの期間、プロジェクトに対しCO₂換算で約310万トンの排出権が発行される見込みです。2011年1月には、2009年8月から2009年12月末までの期間におけるCO₂排出削減量29万トンに対し、排出権が発行されました。これは、ロシア政府初となります。

【データ】

JXエネルギーグループ中期環境経営計画(2010年度～2012年度)

| 重点テーマ | 具体策 | 取組内容 |
|------------------------|-------------------------------------|---|
| I. 地球温暖化防止・生物多様性保全策の推進 | (1)環境にやさしい商品・サービスの提供と開発 | 環境配慮型の燃料油・潤滑油・石油化学品の開発・拡販を推進する。 次世代技術(燃料電池・太陽電池・蓄電池・水素利用技術等)の開発・拡販を推進する。 |
| | (2)サプライチェーン全体としてのCO ₂ 削減 | エネルギー消費原単位の3%削減(2009年度比)を目指す。 |
| | (3)環境貢献活動の推進 | 地球温暖化防止・生物多様性保全に配慮した「自然保護」、「環境教育」、「環境意識啓発」を推進する。 |
| | (4)京都メカニズムの活用 | 京都メカニズムを利用した地球温暖化防止対策を推進する。 |
| II. 継続的な環境負荷低減 | (1)土壌汚染の調査および対策の推進 | 稼働中物件:外部漏洩を防止するための調査・対策を継続する。 廃止物件:計画的な調査・対策を継続する。 |
| | | 浄化技術の開発 低コスト工法を開発する。 |
| | (2)VOC削減対策 | VOC(揮発性有機化合物)削減を継続する。 |
| | (3)廃棄物削減対策 | ゼロエミッション・プラス(最終処分率0.5%未満)を達成する。 |
| (4)オフィスにおける環境負荷低減 | オフィス部門の紙・ごみ・電気を削減する。 | |
| | グリーン購入を推進する。 | |
| | 取引先のグリーン化を推進する。 | |
| III. 環境マネジメント体制の充実 | (1)サプライチェーンにおける環境マネジメント体制(EMS)の拡大 | 特定関係会社・連結子会社におけるISO14001取得またはグループ基準EMSを推進する。 |
| | | 特約店に対しEMS体制の構築を支援する。 |



2010年4月～2011年3月までのデータをもとに報告しています。
(一部2010年3月以前や、2011年度以降の活動や予定も含まれます)